



ソーシャルデザインで、福祉・教育の課題に取り組む
なため みき
家政学部 生活造形学科 教授 生田目 美紀
 動物園・植物園・博物館を、誰もがともに学べる場所に
 ゼミの学生とともに地元ミュージアムに助力

コメントできる
研究領域

- ソーシャルデザイン
- ユニバーサルデザイン
- インクルーシブデザイン
- DX動物園

京都女子大学は、教員の研究活動や社会連携など“社会のための女子大学”の姿をお伝えするニュースレターを発信しています。今回は、ソーシャルデザインやユニバーサルデザインを研究する生活造形学科 生田目美紀教授をご紹介します。

■ユニバーサルデザインを取り入れた「誰にでも優しい、開かれたミュージアムの実現」を20年にわたり研究。

生田目教授は、ソーシャルデザインの手法で、福祉・教育など様々な社会課題の解決に実践的に取り組んでいます。なかでも「誰にでも優しい、開かれたミュージアムの実現」は、20年にわたり注力しています。

ミュージアムでは、建物のバリアフリー化は進んでいますが、視覚・聴覚障がい者などに向けた展示及び学習支援は十分ではありません。生田目教授は、ユニバーサルデザインに基づき、カエルの鳴き声を手の感覚や飛び跳ねる砂粒の動きで感じたり音の大きさや周波数の波形から感じとる装置や、動物を観察しながら視覚的に鳴き声を学ぶオノマトペアプリなど、学習装置や補助教材、デジタル技術を応用したコンテンツなどを開発しています。



カエルの鳴き声装置

■2022年の博物館法改正やコロナ禍で加速したミュージアムのDX化に京都市動物園と協力して取り組む。

生田目教授は京都市動物園と協力して、デジタル技術を活用して誰もが学びを深めることができるDX動物園の設計にも取り組んでおり、京都市動物園に保存されている映像や記録を一般公開し、子ども、高齢者、障がい者も学ぶことができるコンテンツの開発を進めています。

また2025年4月には、ペンギンの観察や剥製の3Dスキャンデータから作った模型を触る、五感で鳥の進化を学ぶワークショップを開催。生息地の環境変化を考えてクチバシ、羽、足のシールを貼り、ペンギンのカードを完成させるプログラムでは、低学年の児童も鳥の進化について学ぶことができました。

■ゼミ学生が京都市動物園、京都府立植物園などの課題解決に助力。

生田目ゼミでは、「来園者にも働く人にも優しく」という考え方から、京都市動物園の職員からヒアリングを実施。ソーシャルデザインを取り入れて来場者の混雑緩和の解決を試み、「京都の森」ゾーンの入り口と出口のサインをデザインしました。2025年度からは京都府立植物園でもヒアリングを実施しており、ポイントGPS技術を活用した花のARフォトフレームで記念撮影ができるイベントを2025年秋に予定しています。

生田目美紀（なため・みき） Profile

<https://gyouseki-db.kyoto-wu.ac.jp/kywuhp/KgApp/k03/resid/S001810>

略歴 1982年3月武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科卒業、1991年3月筑波大学芸術研究科修士課程デザイン専攻修了芸術学修士、2004年3月筑波大学博士（感性科学）。筑波技術短期大学デザイン学科助教授、独立行政法人産業技術総合研究所人間福祉医工学研究部門認知的インターフェースグループ主任研究員、国立大学法人筑波技術大学産業技術学部産業情報学科情報科学専攻教授などを経て、2023年4月より現職。

論文 『聴覚障がい児が動物園で音を楽しむためのアプリのデザイナー動物の鳴き声（感情音声）に合わせた感性的画像変換プログラムの応用』（共著/2024/日本デザイン学会研究発表大会概要集71巻B5-05/日本デザイン学会）『聴覚や視覚に障がいのある児童生徒の科学系博物館等での学びを促進させる支援プログラムと支援システムの開発』（共著/2023/筑波技術大学紀要、筑波技術大学テクノレポートVol.30）『ユニバーサルデザイン教材の開発-ペンギンを題材として鳥類の進化を学ぶ』（共著/2022/デザイン学研究作品集、27(1), 140-145、日本デザイン学会）

<本件に関する報道関係者の皆様からのお問合せ先>

- ・京都女子大学入試広報課 岡橋・竹繩 TEL : 075-531-7054 FAX : 075-531-7222
- ・京都女子大学広報デスク（ブランディング・ポート内）福嶋・井上 TEL : 06-4391-7156 FAX : 06-4393-8216
- ・京都女子大学HP <https://www.kyoto-wu.ac.jp>